

程伯軒著

易易
記解

日本文言文法
(口語對照)

附練習問題解答

民國二十五年三月二十日印刷
民國二十五年三月二十五日發行

易解
易記

日本文言文法(口語對照)

附 練習問題解答

(定價 金壹圓貳拾錢)

東京市神田區三崎町一丁目一ノ一
(伯軒日語學院)

著作者

程

伯

軒

發行者

大

森

逸

馬

東京市神田區神保町二丁目四十二番地

印刷所

平

賀

清

之

助

東京市神田區神保町二丁目四十二番地

發行所

圖書
出版

成

光

堂

電話九段三一五七番
振替東京六一一九三番

序

讀小說、較讀新聞雜誌爲難、然讀小說之難、在於俗語方言、不在文法。已學習口語文法者、已足、非必須知文言文法也。然讀新聞雜誌、則必須兼精口語文言二種文法始可。蓋新聞雜誌之文章、其體裁乃所謂現代文、口語文言併用者也。

文言文法、其重要如此、然不僅無佳本足資參考學習、即此類書籍並不多觀。實爲欲研讀新聞雜誌者之最感困難處。

爰將平時於教室所講述者、加以整理、著爲是書、俾初學者得此、即不就師、亦能自通焉

一九三六、三、十

程 伯 軒

誌於伯軒日語學院

誤正

第三頁三行 馬は草を食ふ……馬は草を食ふ
同四行 而しき……悲しき
同一二行 缺點だらけ……缺點だらけ
同一〇行 悲しいかな……悲しきかな
第二五頁五行 則學何如何……則將何如何
第四八頁八行 死ぬる事か厭はず……死ぬる事は厭はず
第四九頁三行 相成らぬ……相成らず。
第六六頁一〇行 置かればならぬ……置かねばならぬ
第七〇頁四行 弟を思ひ出す……弟を思ひ出す
第七五頁三行 彼起きじ……彼起きず
第七八頁一二行 起きべし……起きべし
第七九頁二行 起きまじ……起きまじ
第八〇頁一〇行の次へ
【第五變化】起くれども
(1)今朝早く起くれれば日の出を見た
り(今晨因早起・看見了日出)
(2)彼は毎朝早く起くれれば身體壯健
に成れり(彼毎朝早起・故身體
壯健)
(3)早く起くれども間に合はず(雖
早起亦趕不及)
譯爲口語如左
(1)今朝早く起きると日の出を見た
(2)彼は毎朝早く起きから身體が
丈夫に成つ左。
(3)早く起きるけれども間に合はな
い。
第八〇頁一〇行 習慣……習慣
第九六頁六行 惡黨なれば……惡黨なれば
第一〇一頁一行 盜は爲し……盜は爲し
同六行 盜は爲まい……盜は爲まい
同八行 旅行……旅行
第一〇二頁一〇行 結婚……結婚
同八行 善行……善行
第一〇四頁二行 善行……善行
第一〇九頁七行 咲かむ……咲かむ
第一一二頁一〇行 警官……警官
第一一三頁一一行 降らじ……降らじ
第一一五頁七行 來れ……來れ
第一一九頁一〇行 病惡く……病惡く
第一二〇頁七行 病惡し……病惡し
第一二二頁一行 惡口……惡口
第一二二頁二行 譯爲口語文如左の次行へ

誤正表

誤正

(1)形勢が悪いから退却しない。
(2)彼の性質が悪ければ絶交しな
い。
(3)病氣が悪いけれども醫者を呼ば
ない。
第一二二頁一〇行 掃除難し……掃除し難し
第一二五頁五行 潔白……潔白
第一二六頁三行(上) 貧しけれ……美しけれ
同一〇行 久しく……久しく
第一二七頁二行 多し……多し
第一三四頁八行 誤ば……(であるから、だから
ですから)
正ば……(であれば、であるか
ら、だから、ですから)
同一一行 身點……身體
第一四三頁二行 冬休……冬休
第一四四頁(上)四行 參……參
第一四五頁四行 日夜……日夜
同七行 空襲は……空襲を
同一〇及一一行 けり……として居た……として居た
第一四八頁四行 慘たるべし……慘たるべし
第一五〇頁四行 (四十六)……(五十一)
同九行 たり恍惚……沈惚
第一五六頁一〇行 飲ませば……飲ませれば
第一五七頁八行 女供……子供
第一六六頁五行 見させば……見させれば
第一六九頁六行 米國せしめけり……
米國へ留學せしめけり
第一七〇頁九行 ボールを蹴しむとも……
ボールを蹴しむとも……
同九行の次へ
譯爲口語文如左
(1)先生が學生に論語を讀ませる。
(2)彼にもつと勉學させなければな
らない。
(3)こんな無意味な會議は開催させ
まい。
(4)小供にボールを蹴させても遠く
へは行かないだらう。
第一七一頁一行、二行 (1)彼を死なせる理由がない。
(2)彼等に悪い事をさせる者は誰か。
第一七三頁九行 誤、ル、レル、レル、レル、
レロ、レ、レ、レル、レル、レル、
正、レ、レ、レル、レル、レル、
レロ
第一七六頁六行 筈に置く……筈に置ける。
第一七八頁八行の次へ
譯爲口語文如左

誤正

(1)彼女に死なれる事は堪らない。
(2)この本は彼に讀まれる事が(好
か)厭だ。
第一七九頁九行 殺されよ……殺されよ。
第一八一頁二行 如爲之……如此爲之
同六行 早く行かば……早く行かねば
第一八四頁二行 見せる時……見せらるる時
同一〇行 (1)どんな事をされても僕が怒らない
同一十一行 (2)大陸が発見されるから皆喜ぶ。
第一八七頁と第一八八頁の間へ(末
一行より第一八八頁加入左句)
譯爲口語文如左
(1)A氏は論語を讀まれた。
(2)彼は經濟原論を了解された。
第一八八頁四行、五行、六行 (1)彼は著書を完成する迄は、博士
號を受けられまい。
(2)彼女に怒られても耐へられるだ
らう。
(3)秩序はこれで維持される。
【第四變化】
同一〇行、一一行 (1)彼女の話を了解される人は彼だ
けです。
(2)五時に起きられる事は少い。
【第五變化】
第一八九頁二行、三行 (1)この本を讀まれれば知識を増す。
(2)四時に起きられるけれども車が
無いから困る。
第一九一頁一〇行 されたり
同九行 汽車を……汽車に
第一九三頁七行 僕を窓から
第一九九頁(右)六行 過去、過去、完了……過去、完了
第二〇六頁八行 十二時と過ぎたり……
十二時を過ぎたり
第二一〇頁三行 研究しにけり……研究しにけり
同四行 讀みにき……讀みにき
同一行 花を花園に栽培しぬ……
花を花園に栽培しぬ
第二一四頁九行 熟睡しつれども
第二一六頁一〇行 汝の祕密を……汝の祕密を
第二一九頁一行 汝に贈らむ……汝に贈らむ
第二二〇頁二行 不便をけりらむ……
不便なりけりらむ
同一一行 心驚るのみ……心驚るのみ
第二二五頁一〇行 べく、べく、べし、べけれ、
べく、べく、べし、べき、べけれ
第二二八頁一行 後患有るも恐る……
後患有るを恐る
第二四四頁一〇行 情緒に知られた……情緒に知られた
——(終)——

助 動 詞 活 用 表

(第二表)

種 類	可 能	被 役	使 役	指 定	否 定	推 量										希 望	比 況	時										
						量												過 去	未 來	完 了								
本形用例	(讀ま)る	(與へ)らる	(飲ま)す	(起き)さす	(起き)しむ	(招く)なり	(市長)たり	(讀ま)ず	(讀ま)ざり	(讀ま)む	(行く)べし	(行く)べかり	(思ふ)らむ	(降る)らし	(降り)けむ	(知る)まじ	(知ら)じ	(學び)たし	(行く)が 花の)ごとし	(讀み)き	(讀み)けり	(咲か)む	(咲く)べし	(鳴き)つ	(明け)ぬ	(歸り)たり	(歸れ)り	
第一變化	れ	られ	せ	させ	しめ	なら	たら	ず	ざら		べく	べから				まじく		たく	ごとく					べく	て	な	たら	ら
第二變化	れ	られ	せ	させ	しめ	なり	たり	ず	ざり		べく	べかり				まじく		たく	ごとく					べく	て	に	たり	り
第三變化	る	らる	す	さす	しむ	なり	たり	ず	ざり	む	べし	べかり	らむ	らし	けむ	まじ	じ	たし	ごとし	き	けり	む	べし	つ	ぬ	たり	り	
第四變化	る	らる	する	さする	しむ	なる	たる	ぬ	ざる	む	べき	べかる	らむ	らし	けむ	まじき	じ	たき	ごとき	し	ける	む	べき	つる	ぬる	たる	る	
第五變化	る	られ	すれ	さすれ	しむれ	なれ	たれ	ね	ざれ	め	べけれ	べかれ	らめ	らし	けめ	まじけれ	じ	たけれ		しか	けれ	め	べけれ	つれ	ぬれ	たれ	れ	
第六變化	れよ	られよ	せよ	させよ	しめよ	なれ	たれ		ざれ															てよ				
接 續 法	四段・ナ變・ラ變之第一變化	二段・一段・カ變・サ變之第一變化	四段・ナ變・ラ變之第一變化	二段・一段・カ變・サ變之第一變化	第一變化	第四變化或體言	體 言	第一變化	第一變化	第一變化	第三變化 (ラ變則爲第四變化)		第二變化		第二變化	第三變化 (ラ變則爲第四變化)	第一變化	第二變化	第四變化 (或挿入「が」「の」)	第二變化 (カ變・サ變則爲特例)	第二變化	第一變化	第三變化 (ラ變則爲第四變化)	第二變化	第二變化 (在ナ變則不接)	第二變化	四段之第五變化 サ變之第一變化	

(第一表)

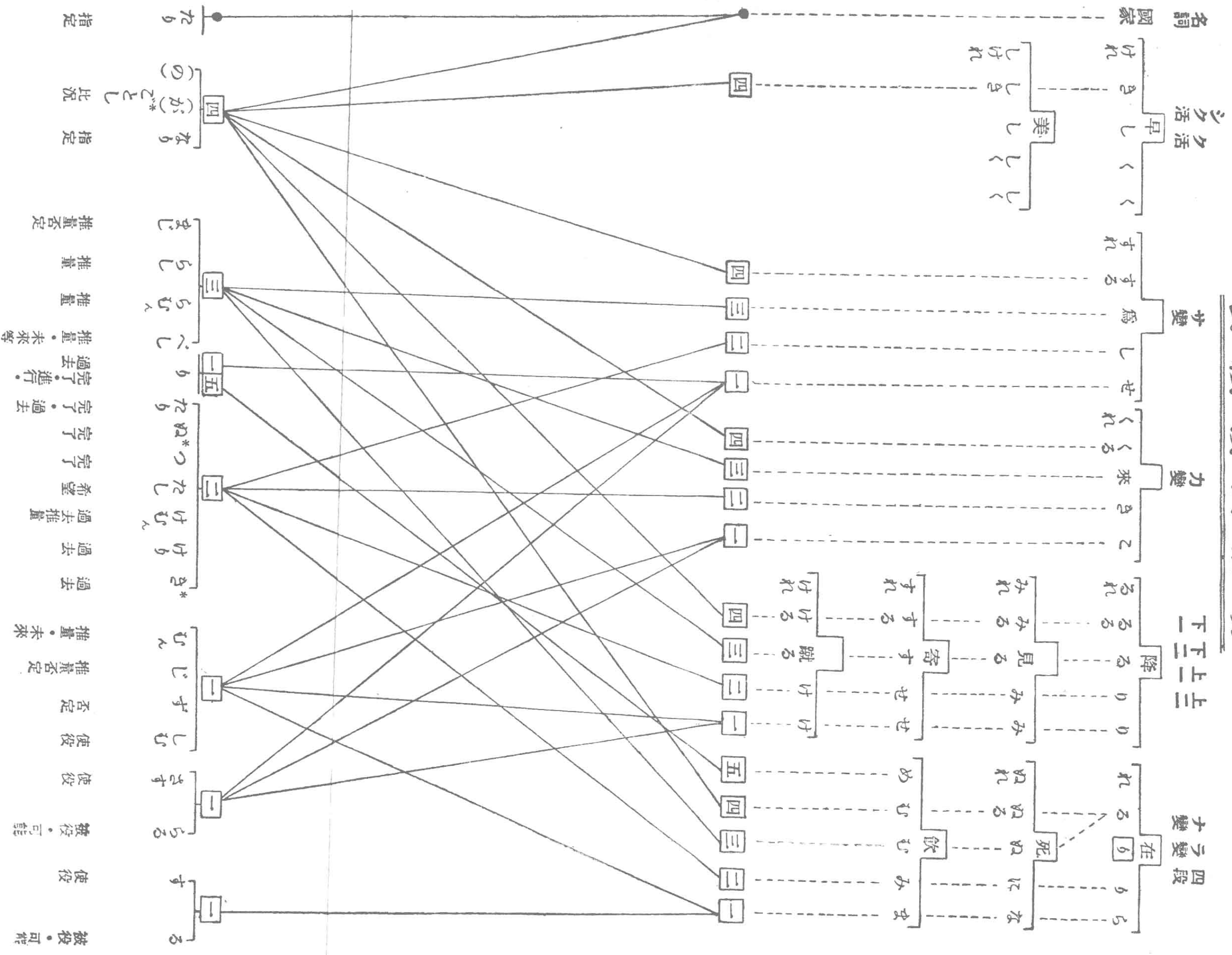
活用名漢字語尾活用		四段										上二段										上一段										下二段										カ行變格		サ行變格	
		カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行												
一變	か	さ	た	ち	は	ま	ら	な	ら	き	ち	ひ	み	い	り	き	に	ひ	み	い	ゐ	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ	け	こ	せ											
二變	き	し	ち	ひ	み	む	る	に	り	き	ち	ひ	み	い	り	き	に	ひ	み	い	ゐ	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ	け	こ	せ											
三變	く	す	つ	ふ	む	む	る	ぬ	る	く	つ	ふ	む	ゆ	る	きる	に	ひ	み	い	ゐ	え	く	す	つ	ね	ふ	む	ゆ	る	う	ける	く	す											
四變	く	す	つ	ふ	む	む	る	ぬ	る	くる	つる	ふる	む	ゆる	る	きる	に	ひ	み	い	ゐ	え	くる	する	つる	ぬ	ふる	む	ゆる	る	うる	ける	くる	する											
五變	け	せ	て	へ	め	め	れ	ぬ	れ	くれ	つれ	ふれ	むれ	ゆれ	れ	きれ	に	ひ	み	い	ゐ	え	くれ	すれ	つれ	ぬれ	ふれ	むれ	ゆれ	れ	うれ	けれ	くれ	すれ											
六變	け	せ	て	へ	め	め	れ	ぬ	れ	きよ	ちよ	ひよ	みよ	いよ	りよ	きよ	に	ひよ	みよ	いよ	ゐよ	えよ	けよ	せよ	てよ	ねよ	へよ	めよ	えよ	れよ	ゑよ	けよ	こよ	せよ											

口語動詞語尾		四段										上二段										上一段										下二段										カ行變		サ行變	
		カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行	タ行	ハ行	マ行	ラ行	カ行	サ行												
一變	か	さ	た	ち	は	ま	ら	な	ら	き	ち	ひ	み	い	り	き	に	ひ	み	い	ゐ	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ	け	こ	せ											
二變	き	し	ち	ひ	み	む	る	に	り	き	ち	ひ	み	い	り	き	に	ひ	み	い	ゐ	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ	け	こ	せ											
三變	く	す	つ	ふ	む	む	る	ぬ	る	く	つ	ふ	む	ゆ	る	きる	に	ひ	み	い	ゐ	え	く	す	つ	ね	ふ	む	ゆ	る	う	ける	く	す											
四變	く	す	つ	ふ	む	む	る	ぬ	る	くる	つる	ふる	む	ゆる	る	きる	に	ひ	み	い	ゐ	え	くる	する	つる	ぬ	ふる	む	ゆる	る	うる	ける	くる	する											
五變	け	せ	て	へ	め	め	れ	ぬ	れ	くれ	つれ	ふれ	むれ	ゆれ	れ	きれ	に	ひ	み	い	ゐ	え	くれ	すれ	つれ	ぬれ	ふれ	むれ	ゆれ	れ	うれ	けれ	くれ	すれ											
六變	け	せ	て	へ	め	め	れ	ぬ	れ	きよ	ちよ	ひよ	みよ	いよ	りよ	きよ	に	ひよ	みよ	いよ	ゐよ	えよ	けよ	せよ	てよ	ねよ	へよ	めよ	えよ	れよ	ゑよ	けよ	こよ	せよ											

口語動詞語尾

備考 在サ行變格之中口語有爲サ行上一段活用者如 封じる、案じる、判じる、煎じる、等

助動詞接續表



「日語公式詳解」

程伯軒 著

所謂「公式」乃舉凡日本一切熟語、俗語、成句、俚諺、一切難解文字、字典所無、文法所不載者、以極恰當之漢語、解釋翻譯。反覆引例說明。自出版以來、已一版再版、風行海內外、上海生活書店、亦競購權版、爭爲出版、是書分第一第二第三三篇、共列舉公式七百餘、誠爲學習日語者、之最良且不可或缺之參考書

代售處

平裝	每冊	七角
精裝	每冊	一圓
東京	神田	成光堂
東京	神田	笹川書店
上海		生活書店

目 錄

程 伯 軒 著

第一篇 總 說

第一章 品詞概說

第二章 文章解剖之概說

第二篇 品詞詳解

第一章 名詞

第二章 代名詞

第一節 人稱代名詞

第二節 事物代名詞

第三節 場所代名詞

第四節 方向代名詞

第五節 特例

第三章 動 詞

第一節 四段活用

第二節 ナ行變格活用

第三節 ラ行變格活用

第四節 上一段活用

第五節 上二段活用

第六節 下一段活用

第七節 下二段活用

第八節 サ行變格活用

第九節 カ行變格活用

第四章 形容詞(附形容動詞)

第一節 ク活用

第二節 シク活用

第三節 ナリ活用

第四節 カリ活用

第五節 タリ活用

第五章 助動詞

第一節 使役助動詞

第一目 接四段、ナ變、

ラ變之下者

第二目 接上一、下一、上二、下

二、サ變、カ變之下者

第三目 接任何動詞之下者

第二節 被役助動詞

第一目 接於四段、ナ變、ラ變

之下者

第二目 接於上一、下一、上二、下

二、カ變、サ變之下者

第三節 可能助動詞（總述）

第四節 敬語助動詞

第五節 指定助動詞

第一目「ナリ」

第二目「タリ」

第六節 過去、完了、未來、進行

之助動詞

第一目 む

第二目 き

第三目 けり

第四目 ぬ

第五目 たり

第六目 つ

第七目 り

第八目 べし

第九目 らむ

第十目 けむ

第七節 否定、推量、推量否定

之助動詞

第一目 ず

第二目 ざり

第三目 べし

第四目 べかり

第五目 まじ

第八節 希望、比況、之助動詞

第一目 かし

第二目 ごとし

第三目 ごとくなり

第六章 助詞

第一節 前提法 助詞

第一目 ば(第一變化)

第二目 て

第三目 とも

第四目 に

第五目 を

第六目 が

第七目 も

第八目 ば「第五變化」

第九目 ど

第十目 ども

第二節 主格、賓格、補格、之助詞

第一目 主格

第二目 賓格

第三目 補格

第三節 係結、疑問之助詞

第一目 ど

第二目 なむ

第三目こそ

第四目 や

第五目 か

第六目 や

第七目 か

第四節 類推、累加、連叙、

禁止之助詞

第一目 類推

第二目 累加

第三目 連叙

第四目 禁止

附 練習題解答 (終)



易解
易記

日本文言文法（口語文對照）

程 伯 軒 編著

第一篇 總 說

第一章 品 詞 概 說

日本文法・共分九種品詞。即（一）名詞（二）代名詞・（三）動詞（四）形容詞（五）助動詞（六）助詞（七）副詞（八）接續詞（九）感嘆詞・外加「接頭語」・「接尾語」。共有十一種之多。

（此種分類・在實用時、細一考察、實有甚多牽強矛盾之處。惟著者編著此書、目的在使國人能通解日本語已足、無暇爲日本文法自身加以改革、故一仍舊貫、講述之）今略示其例於左〃

(1) 名

(附數詞) 詞

政治、教育、鉛筆、帽子、山、川、草、木、春、夏、冬、
南京、上海、拿破崙、華盛頓、揚子江、黃河、一、三、
十冊、八號、二艘、五本、第二、三十、

總稱

(2) 代

名

詞

我、汝、彼、誰、我等、汝等、彼等、これ、それ、あれ
何、此處、其處、彼處、何處、此方、其方、彼方、何方
某、己……

體言

(3) 動

詞

鳥鳴く。花咲く。農夫田を耕す。月輝く。學生書を讀む
彼には希望有り。

總稱
用言

(4) 形
(附、形容動詞) 容 詞

遠き道。道遠し。新しき家。家新し。靜かなる所。
彼處は靜かなり。紛々たる論議。彼は傲然たり。
昨日の雨激しかりき。この花美しからず。

用言

(5) 助

動

詞

未だ讀まず。既に讀みき。彼來たり。
芝生に入るべからず。櫻咲きけむ。

(6) 助

詞

我は行く。鳥(が)鳴く。馬は草を食ふ。彼に抗議したり。
善をして怠らず、而しき事有るか(等々……)

(7) 副

詞

直ちに賛成す。今行く。いと靜かに語る。
未だ到着せず。巧みに操縦す。

(8) 接

續

詞

中國及び日本は東洋に於ける大國なり。
東京又は京都は日本の都市なり。
彼は意に介せず。されば我も釋然たり。

(9) 感

嘆

詞

あら可笑しや。あゝ悲しいかな

品附
詞屬

接頭語
接尾語

打續く。さ迷ふ。取締る。容易し
紳士振り。威張る。缺點だらけ。我等。不足勝、黄ばむ。

綜觀右所示例。「名詞」一望而知。惟數字、亦在名詞之例。代名詞、亦甚明顯、凡代替一名詞者均是。此二者、總稱之曰「體言」。

「動詞」乃表述動作狀態。如鳥鳴、花開、等、「鳴」與「開」、皆動詞也。

「形容詞」乃修飾一名詞（或代名詞）者。如「遠き道」（遠道）。「美しき花」（美麗的花）。「白き紙」（白紙）。「紅き鉛筆」（紅鉛筆）。此「遠き」「美しき」「白き」「紅き」皆形容詞也。又「靜かなる所」（靜肅的地方）。「紛々たる議論」（紛々の議論）「彼は傲然たり」（彼傲然）。「この花は美しからず」（此花不美）等々、此「靜かなる」「紛々たる」「傲然たり」「美しからず」皆形容動詞、即形容詞之「ナリ活用、タリ活用、カリ活用」是也。此於後章詳述之、即能明瞭。

「助動詞」乃幫助一動詞者、如「讀まず」（不讀）、讀みき」（讀了）。「來たり」（來了）。「入るべからず」（不可入）。此「ず」「き」「たり」「べから」等々均助動詞。

「助詞」乃添於名詞或代名詞（或動詞四變形形容詞四變之下。更有時添于第二變或第三